

平成28年度 地域支援事業の評価アンケート集計結果

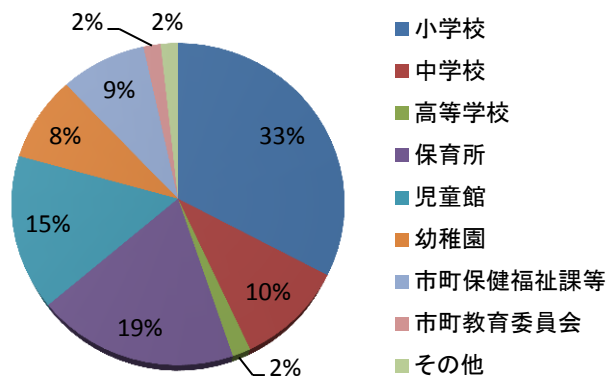
宮城県立角田支援学校 支援部

1. アンケート集計結果

回収率 60% 58/96

(1) 所属

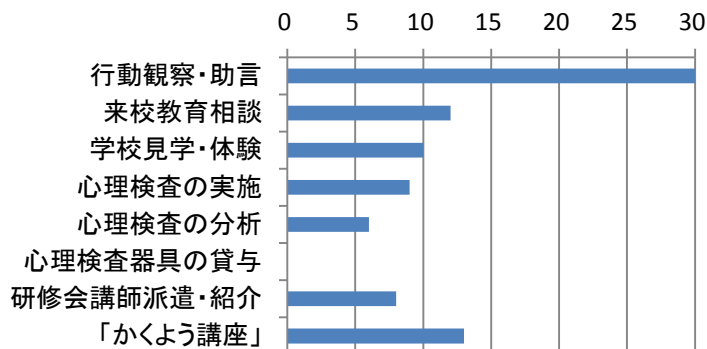
小学校	19
中学校	6
高等学校	1
保育所	11
児童館	9
幼稚園	5
市町保健福祉課等	5
市町教育委員会	1
その他	1
<合計>	58



※今回のアンケートは、角田支援学校本校の小中学部の学区である、角田市、丸森町、柴田町、大河原町、村田町の保健福祉関係課及び教育委員会、保育所、児童館(児童センター)、幼稚園、小・中・高等学校を中心に、今年度利用のあった施設等(全96施設)を対象に行った。

(2) 今年度活用してよかった事業

行動観察・助言	30
来校教育相談	12
学校見学・体験	10
心理検査の実施	9
心理検査の分析	6
心理検査器具の貸与	0
研修会講師派遣・紹介	8
「かくよう講座」	13

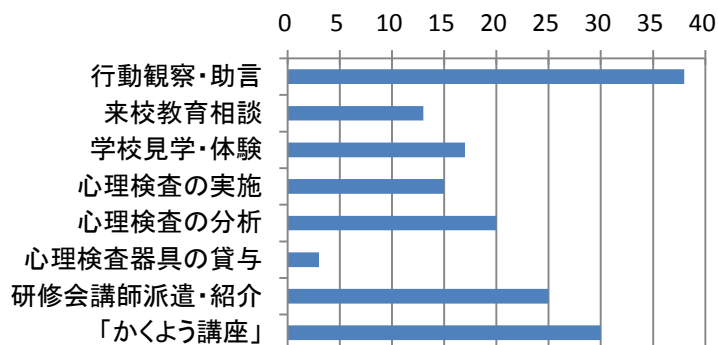


【考察】

- 訪問しての行動観察・助言、講師の派遣や紹介、来校しての教育相談が昨年よりも増えている。「教室の中で気になる子」に対する支援方法を知りたい、就学や進学において相談内容を参考にしたいという希望が多かったためと思われる。
- 「かくよう講座」の数が昨年よりも少なかった。3回実施したが、平日の午後の開催が2回あり、教職員の参加が難しかったことが考えられる。

(3) 今後活用したい事業

行動観察・助言	38
来校教育相談	13
学校見学・体験	17
心理検査の実施	15
心理検査の分析	20
心理検査器具の貸与	3
研修会講師派遣・紹介	25
「かくよう講座」	30



【考察】

- 行動観察に基づく助言、「かくよう講座」の開催、研修会の講師派遣に対する希望が今年度も多く見られた。本校の地域のセンター的役割に対する期待が大きいと思われる。
- 心理検査の実施・分析については、小学校からの希望が多い。分析結果を基にした、個に応じた具体的な支援の方法についての助言が求められている。

(4)意見・要望等

- 日々の実践に生かせる「かくよう講座」の継続
- 幼・保・児童センターへの定期的な訪問と子どもの行動に対する支援方法の助言
- ABCチェックリスト実施後の児童・生徒に対する支援方法についての助言
- 教材・教具を含めた校内における指導例のホームページへの掲載
- 職員の研修を兼ねた学校見学
- 児童や保護者向けの巡回相談の実施

【考察】

- 地域のニーズを把握し、日々の教育活動の中ですぐに活用できる研修の開催が望まれている。
- 就学前の子ども達の行動に対する早期の気づきと適切な支援のために、幼・保・児童センターへの定期的な訪問が求められている。
- 各々の学校で支援方法や支援体制が検討できるように、チェックリストや検査の結果に対応できるための研修が必要である。
- 教材・教具、実際の指導の様子の紹介など、相談に対応できる開かれた学校作りについて期待されている。
- 教育委員会や保健師との連携を密にし、地域の社会資源についての情報をさらに発信していく必要がある。

2. 今後の方針と手立て

【方針】

- 各市町の教育委員会や保健福祉課、幼稚園・保育所、学校等と連携してチームによる支援体制を作り、保護者と共に個々に合った就学や進学に向けての支援を目指す。
- 地域支援事業の充実を図るとともに、相談校における支援体制が整うように働き掛ける。
- 校内外における研修・相談の充実を図り、子どもを取り巻く支援者の専門性の向上を目指す。

【手立て】

- ①各市町の教育委員会や保健福祉課を訪問し、関係者による取り組みの連携について確認をする。
 - ・就学や進学にあたる幼児・児童・生徒本人及び保護者、関わる支援者(担任、教育委員会、保健師等)についての学校見学の推奨
 - ・就学や進学にあたる幼児・児童・生徒について、関わる支援者(教育委員会、保健師、学校職員)による訪問相談の充実
- ②相談において、支援情報の共有や研修の還元が図られるようにする。
 - ・特別支援教育連携協議会やコーディネーター連絡会等を活用した地域の情報の共有化
 - ・訪問相談で提供した支援情報についての校内研修等による共有化
- ③地域及び校内のニーズに合わせた研修会や事業を実施する。
 - ・地域の支援者及び校内職員を対象とした支援に関わる研修の実施
 - ・居住地校学習・かくよう祭をはじめとする校内実践や市町ごとの社会資源についての情報発信

